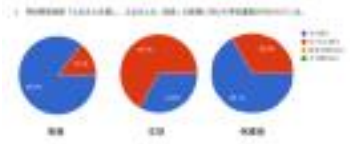
学校評価（まとめ）

丹波中学校

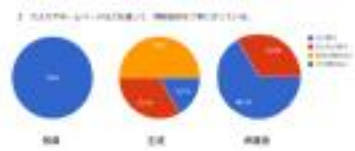
１　学校教育目標「ふるさとを愛し、ふるさとから学び、ふるさとを創造する生徒の育成」

(1)　学校教育目標の実現に向けた学校運営



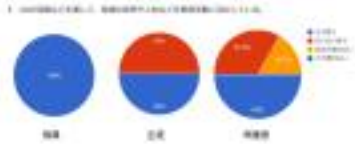
CS に関わる活動、ふるさと「丹波山村」学習、栽培委員会の活動をはじめ、様々な活動の中で地域の方々に協力していただいた。学校教育目標の実現に向けた学校運営が教員内の意識にもあり、生徒と保護者にも伝わっていることがアンケート結果からもわかる。今後も地域とともにある学校づくりを通して、ふるさとを愛し、ふるさとから学び、ふるさとを創造する生徒の育成に取り組んでいきたい。

(2)　たよりやホームページなどを通した情報提供



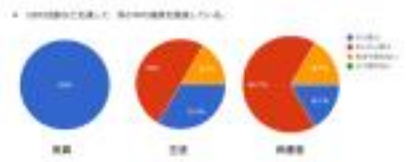
保護者、地域とよりよい連携を図るために、今年度も学校の取り組みや生徒の活動の様子を発信することができた。また、PTA 定例会で出された要望を受けて、９月からは通知を紙媒体だけでなくあんしんメールでも配布することで利便性を上げることもできた。アンケート結果はもとより日頃のレスポンスの良さからも、学校からの情報発信に対して、保護者は関心を持っていることがうかがえる。ただ、生徒への質問のみ「学校からのおたよりやホームページなどに関心がある。」という表現であったため、あまり関心を示していない様子がうかがわれた。短学活での読み聞かせなど工夫をして、学校からの情報発信に関心を持たせていきたい。

(3)　地域資源の活用



自然体験、地場産業、伝統文化において地域の自然や人材を有効に活用できたのは、コミュニティ・スクールの成果ともいえる。アンケート結果からも活動が、教員、生徒、保護者に定着していることがわかる。しかし、今年度から地域学校協働活動へ移行した舞茸祭に関しては、取り組みに関する理解が一部得られていない状況があった。今後も地域、保護者、学校で連携を取り合いながら生徒たちを育てていきたい。

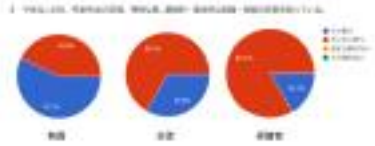
(4)　保小中の連携



主にCSの活動を通して、保小中の連携を図ることができた。また、その成果を村民体育祭で発表することもできた。保育所とは栽培活動や家庭科の授業でも交流を進めている。今後も保小中の連携を図れるような取り組みを進めていきたい。

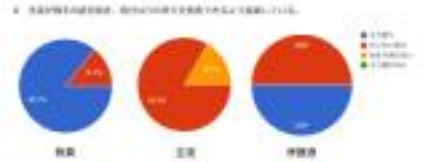
2　知「自ら学び続ける生徒」

(1)　基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る授業づくり



教育センター主催の研修など、各種研修を積極的に受けることができた。さらに校内研や丹菅教協で研究授業を提供し、授業力を高める学びあいができた。生徒から「一対一で分かるまで教えてくれる」という記述があるように、一人一人に応じた指導は生徒や保護者から概ね良い評価を得ている。今後も個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進を目指して、校内研などを通して指導力をブラッシュアップしていきたい。

(2)　思考力・判断力・表現力を育てる言語活動の充実



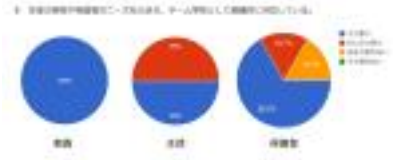
知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動の充実を図った。具体的には授業や学級活動の中で、相手の話を聞き、自分なりの考えを発表する場面を設けてきた。日常の授業はもちろん、清流祭や学習発表会など大きな発表の場でも生徒たちは意欲的に取り組んでいた。今後も教科等横断的な視点から、いろいろな場面を通して言語活動の充実を図っていきたい。

(3)　まな Book の活用

本校では、生活記録と自主学習計画と定期テスト取り組み表が 1 冊にまとまった独自教材「まな Book」を使用している。帰りの会の後にある「学び TIME」で計画を立て、朝の会で回収して担任がチェックしている。教科担当が宿題を出したり、保健指導でも生活習慣改善を呼びかけたりしているが、帰宅後に自主学習をする習慣が身についているとは言い難い。教員、生徒、保護者ともに家庭学習は課題であることを認識している。基本的な生活習慣の確立、自主学習への意欲付けなど個に応じた取り組みを継続していきたい。また、校内研の中でまな Book の内容を見直して、生徒の実態に合った教材となるようにしたい。

３　徳「自分に厳しく、他人にやさしい生徒」

(1)　生徒や保護者のニーズをふまえた組織的対応



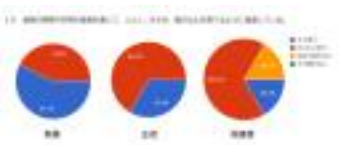
生徒一人一人に対して、全職員が共通理解を図りながら指導に当たることができた。また、必要に応じて関係機関とも連携しながら組織的な体制を作っている。それが生徒、保護者にも伝わっていることがアンケート結果からもうかがえた。保護者から「生徒が少ない分、一人ひとりに目をかけてもらい対応していただいています。」という意見もあった。

(2)　自主的、実践的な態度を養う特別活動

学級活動や生徒会活動を通して、生徒たちが協力してよりよい学校生活づくりを行えるようにした。日常の当番活動、委員会活動は人数が少ないながらも役割を果たす姿が見られる。ただ、生徒会行事への取り組みに関しては個に応じたバックアップを行っているため、教員、生徒、保護者のほとんどが「だいたいそう思う」になることは理解できる。それぞれが理想とする活動レベルではないかもしれないが、生徒一人一人が頑張っていることは確かである。その歩みを認めながら今後も取り組んでいきたい。

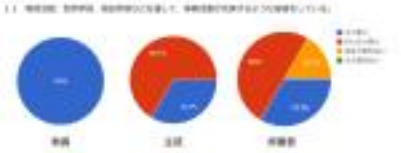
(3)　豊かな心を育てる特別な教科　道徳

本校では全校道徳をはじめ道徳教育に教員全体で取り組み、定着していることが成果である。生徒も意欲的に授業に臨んでいる。今後も豊かな心の育成を図っていきたい。



(4)　生きる力をはぐくむ体験活動

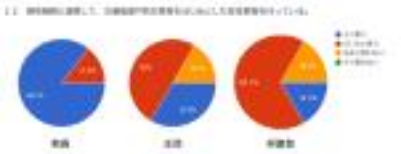
栽培活動、宿泊学習、CS に関わる学習など、今年度も充実した体験活動を行うことができた。今後も直接自然や人・社会等と関わることのできる体験活動を通して、生きる力を育んでいきたい。



４　体「心身ともにたくましい生徒」

(1)　関係機関と連携した安全教育

交通安全運動、救急救命法講習会で、駐在所や消防署と連携した活動ができた。また、避難訓練を通して安全について学ぶ機会を設けることができた。これらが有効であったことがうかがえる結果となった。今後も関係機関と連携しながら安全教育に取り組みたい。



５　教育課程

日課時程表の予鈴部分をなくす、帰りの会と学びタイムを続けて行う、清掃を週２回にするという日課時程表の見直しを行った。これによって、５期に分かれていた下校時刻の設定を夏と冬の２期に整理することができた。今年度後半からの段階的な試験運用では特に問題はなく、教員のみ調査から一定の成果を得ることができたため、来年度からは完全実施とする。今後は、放課後の過ごし方（場所や内容も含めて）についても取り組んでいきたい。また、給食と清掃の当番活動も引き続き丁寧に指導していきたい。